

# 奥能登スマート観光プロジェクト

(スマートフォンを活用した「能登の里山里海」PR展開プロジェクト)



# ICT奥能登「絆」づくり協議会

【会 長】 珠洲市長

【設置期間】

平成23年10月17日～  
所期の目的を達するまで

【副会長】 輪島市長、穴水町長、能登町長

【共同事務局】

北陸総合通信局、石川県、輪島市、  
珠洲市、穴水町、能登町、奥能登広  
域圏事務組合

【顧問】

大阪大学 金谷教授  
北陸総合通信局 齊藤局長

【座 長】 金沢星稜大学 大藪教授

(順不同)

- (地方公共団体) 石川県、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町、奥能登広域圏事務組合
- (地域・ICT関連団体) 輪島商工会議所、NPO法人能登すずなり、能登町観光協会、能登北部医師会、  
一般社団法人テレコムサービス協会北陸支部、社団法人石川県情報システム工業会、  
石川地上デジタル放送推進協議会、北陸情報通信協議会
- (電気通信事業者) 西日本電信電話(株)北陸事業本部、(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ北陸支社、KDDI(株)北陸総支社、  
ソフトバンクモバイル(株)、北陸通信ネットワーク(株)、能越ケーブルネット(株)
- (ICT関連企業) (株)アイ・オー・データ機器、アライド・ブレインズ(株)、(株)インテック、エヌ・ティ・ティ・データ・カスタマサービス株式会社北陸支社、  
サイバーステーション(株)、日本電気(株)北陸支社、(株)パステルラボ、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ北陸  
パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)北陸社、富士通(株)北陸支社、(株)ヨーズマー
- (放送事業者等) 日本放送協会金沢放送局、(株)北國新聞社、(株)エフエム石川

会員数 34 団体

観光部会

高齢者見守り部会

医療部会

(H24.6第2回総会において  
高齢者見守り部会に統合)

協議会総会は年1回、部会は年3～5回程度開催予定。

# ICT奥能登「絆」づくり協議会第4回観光部会(平成24年10月10日)で、 「スマートフォンを活用した観光情報提供システムのモデル実験」の実施を決定



観光部会長  
(金沢星稜大学教授 大藪 多可志)

平成23年6月、「能登の里山里海」が国内初の世界農業遺産に認定され、また、平成25年4月には能登有料道路の無料化、さらに、平成27年春には待望の北陸新幹線の金沢開業を控え、奥能登地域にとっても国内外から沢山の観光客が訪れる大きな可能性と夢が広がっています。

ICT奥能登「絆」づくり協議会(会長:泉谷満寿裕 珠洲市長、顧問:齊藤一雅 北陸総合通信局長)の観光部会(部会長:大藪多可志 金沢星稜大学教授)では、ICTを活用した観光振興の方策について検討してきましたが、10月10日に開催された第4回会合において、奥能登地域を中心にスマートフォンを活用した観光情報提供システムのモデル実験を来年の観光シーズン(来年春から8月頃)に合わせて実施することを決定しました。

モデル実験では、ホームページや観光パンフレット、案内看板等では難しかった観光客の年齢、趣向に応じたきめ細かな情報を日本語のみでなく多言語で提供し、奥能登地域を訪れる観光客のニーズへの適合度(満足度)をはじめ、観光動線(周遊性)、誘客効果等について、アンケートやログの分析による検証を行います。

今回のモデル実験の特徴は、以下のとおりです。

地域の産学官で構成された協議会が幅広い分野との協働により実施。

多言語及びAR(拡張現実)機能に対応した観光情報を提供することにより、観光施設等にスマートフォンをかざすだけで簡単に施設等の情報が得られる。

観光客の年齢、趣向に応じた最適な観光ルート情報を提供。

外国人観光客等に対するスマートフォンのレンタル。

利用者アンケートやアクセスログを分析することにより、観光客のニーズへの適合度(満足度)をはじめ、周遊性の向上、誘客効果等の有効性を分析。

実用サービス実施のためのビジネスモデルを検討。

今後、ICT奥能登「絆」づくり協議会及び北陸総合通信局では、さらに関係者からのご提案やご協力を得ながら、モデル実験の実施に向けて、積極的に取り組んでいくこととします。

スマートフォン  
実機デモ



観光部会の模様

## 奥能登スマート観光プロジェクト(モデル実験)の概要

### 実施主体

ICT奥能登「絆」づくり協議会(観光部会が実施。)

### 実施エリア

奥能登を中心とした石川県内(金沢城、兼六園にも対応)

### 実施スケジュール

平成25年3月4日(月)～平成25年8月31日(土) 情報提供サービスのモデル実験

### 実施項目(予定)

- 多言語、AR(拡張現実)機能を用いた観光情報提供モデルの構築
- SkyWareアプリを搭載したスマートフォンのモニターレンタル(50台)
- 利用者アンケート
- アクセスログの分析
- 有効性の検証
- ビジネスモデルの検討
- その他、関連する事項

# 多言語、AR(拡張現実)機能を用いた観光情報提供モデル

## 現状



【多言語看板の例(富士山五合目)】

多言語対応の大きな看板を複数設置  
しようとしても・・・

- ・ 景観が損なわれる
- ・ 設置費用がかさむ

という問題があり、「現地」における情報提供体制は十分に整っていない。



克服困難な  
課題を解消

## 「スマートフォンによるスマート観光」の実現

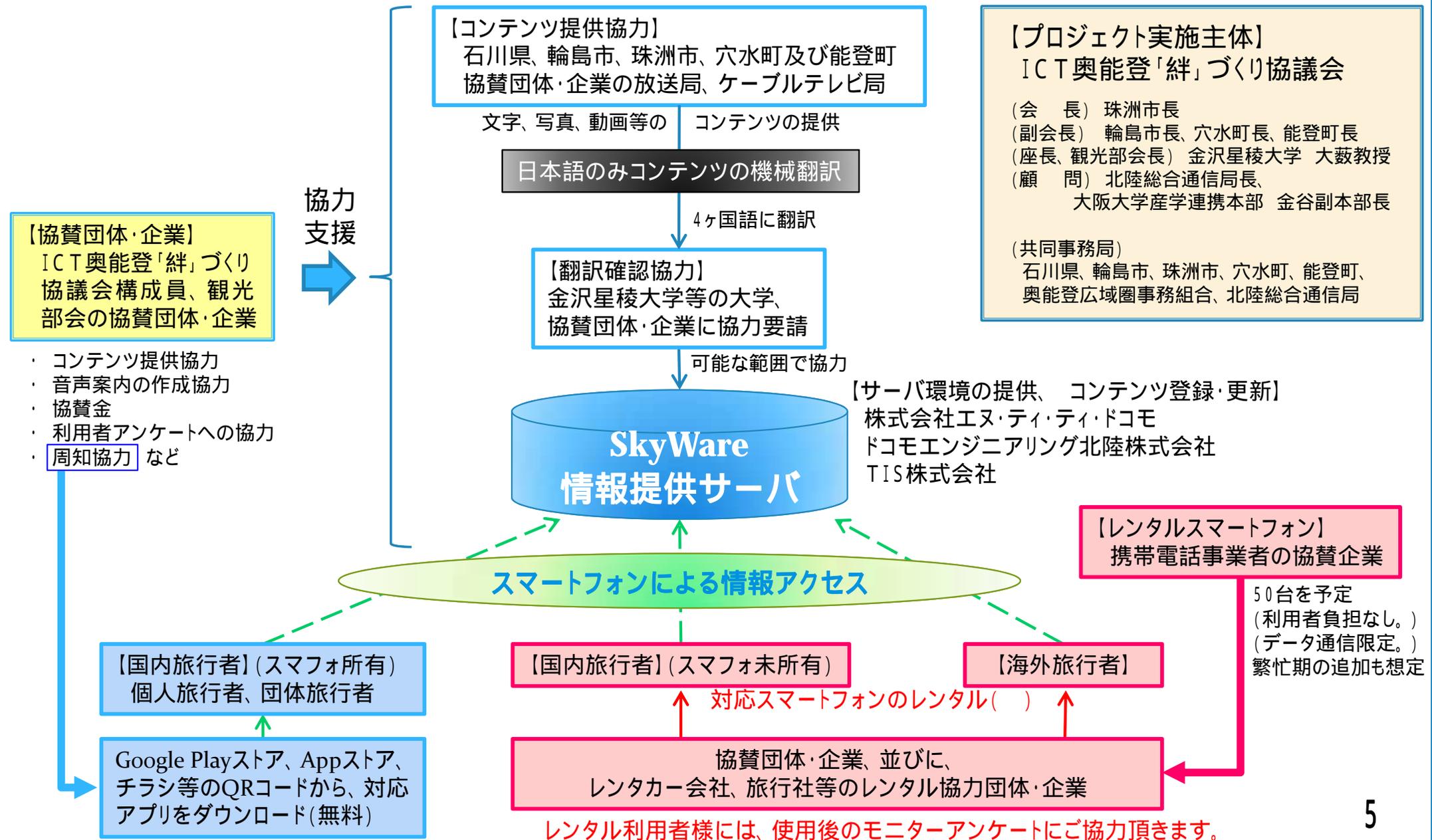


【スマートフォンでの情報タグ表示例】

### 【スマートフォン向け観光情報提供システムの導入効果】

- ・ 景観を損なうことなく、多言語で情報提供が可能。
  - ・ 低廉に、非常に多くの施設等の情報提供が可能。
  - ・ 観光旅行客は興味のある施設等に写真を撮るようにスマートフォンをかざすだけで簡単に情報入手可能。
  - ・ イベントやお祭り等の季節行事に応じた情報提供により、生きた情報発信が可能。
  - ・ アクセス記録から観光旅行者動向の分析が可能。
- 誘客力の向上、リピーターの増大に寄与**

# 奥能登スマート観光プロジェクト(モデル実験)の実施体制



## 奥能登スマート観光プロジェクト(モデル実験)の特徴

地域の産学官で構成された協議会が幅広い分野との協働により実施すること。

多言語及びAR(拡張現実)機能に対応した観光情報を提供することにより、観光施設等にスマートフォンをかざすだけで簡単に施設等の情報が得られること。

外国人観光客等に対するスマートフォンのレンタルを行うこと。

利用者アンケートやアクセスログを分析することにより、観光客のニーズへの適合度(満足度)をはじめ、周遊性の向上、誘客効果等の有効性を分析すること。

実用サービス実施のためのビジネスモデルを検討すること。